

## 「フィネガンズ・ウェイク」第4部の概要 (2)

(p.604 l.27 ~ p.628 l.16)

著者	大島 由紀夫
雑誌名	東京海洋大学研究報告
巻	5
ページ	79-92
発行年	2009-03-27
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1342/00000338/">http://id.nii.ac.jp/1342/00000338/</a>

[ 資料 ]

## 『フィネガンズ・ウェイク』第4部の概要 (2) (p.604 l.27 ~ p.628 l.16)

大島 由紀夫\*

(Accepted November 21, 2008)

### The Epitome of James Joyce's *Finnegans Wake* IV (2) (p.604 l.27 ~ p.628 l.16)

Yukio OSHIMA

**Abstract:** I translated into Japanese James Joyce's *Finnegans Wake* IV (p.604 l.27 ~ p.628 l.16). In some parts I translated it word for word, but in other parts I just gave the gist of the sentences or the paragraphs. So in naming the title I used the word 'epitome', not 'translation'. The epitome mainly treats St. Kevin's action, conversation between Muta and Juva, dispute between Berkeley and St. Patrick, ALP's letter and ALP's stream of consciousness.

**Key words:** *Finnegans Wake*, Part 4, epitome

創造されることのない神の僕であり、創造主である主を畏れる子であるケヴィンは、生えている草に心を奪われ、また高い樹木にも夢中になっていたものの、我々が目にしてきたように、また耳にしてきたように、またこれまで我々に伝えられたことであり、我々が伝えてきたことであるが、ふしだらな馬鹿者、軽はずみな鼻持ちならない奴であった。しかし我々は次のことを期待し、心から願うことになる。つまり知識愛から、何度も同じように、他愛主義に基づき、人々がそれと気づかないうちに互いに和合する方法を知ろうとして、4匹の雄羊の毛を刈り、こぎれいな酪農場を毎日通り過ぎ、前掛け一杯分のおこっている炭火を道々届け、とげとげしい、体中刺し傷だらけで、[605] 投石を好み、死んで骨をかじられることも厭わないネリー・ネトルと彼女の情熱的な恋人をなだめ押さえ、不道德な人々皆に我々の洗礼の世話をさせる—これらのことが彼の生死にかかわる問題となり奇跡的に実現することを、それが実現するまで、期待し、心から願うのだ。

そうした日に、アイルランドという最果ての島の、環状のアイルランドの群島で天地創造後に創造された、自ら清貧を心掛けたケヴィンは、その中の一人が名付け親となっている、天地創造前に創造された聖なる白装束の天使たちを祭る祝祭日に、ただ一つしかない真の十字架を崇めると、天地創造後に考案され賞賛された持ち運び用浴槽付き祭壇を持つ特権を与えられた。独身者である彼は朝の鐘の音で起き上がり、金色の祭服を着て、我が国の中心部にある緑

におおわれたグレンダロッホに、西側から大天使の導きにより来た。そこで、アイルランドの聖職位の中で助祭であるケヴィンは敬虔にも、他の湖から離れた二つの航行可能な湖のうち一方の湖の、シー川とヒー川の合流するところで、聖三位一体を称揚しながら、人々を導くための最高級の浴槽付き祭壇の真ん中に座り、筏に乗って中心へとこぎ出し、小さな方の湖の中央を進み、その中心にある湖のこの上なく素晴らしい島へわたった。その島から見ると湖は外に広がる公国であった。その島では、夜明けまでに、知識を全開にして、環流性の激流と清流にはさまれた島の中心部へと行った。孤島の存在する小湖水は、湖水の小島を孤立させている。漂白した筏と祭壇の脇の副助祭としての浴槽とともに、頭に極度に油を注ぎ、祈りを同伴者として、聖ケヴィンは三日目の朝までそこに滞在し、ひたすら悔悟のための蜜蜂の巣のような赤色の小屋を建て、枢要徳を持ったこの侍祭は、その禁域の中で不屈の精神を持って生活した。聖人中の聖人であるケヴィンは、その砂の床にまる一尋の七分の一の深さもある穴を掘った。それを掘ると、隠者ケヴィン師は助言を受けつつ、小島の岸の湖側へと進み行き、そこで彼は東の方を向いて7数回跪き、6時課に完全に従ってグレゴリア聖水を7度湖から集めると、あの特権的に持っている浴槽付き祭壇【にそれを入れて】運びながら、聖体祭儀の時の妙なる喜びを持ってそこを7度退き、湖面の高さくらい高い能力のある聖句の読師であり最も尊いケヴィンは、その浴槽から掘った穴へと7数度注

\* Department of Maritime Systems Engineering, Faculty of Marine Technology, Tokyo University of Marine Science and Technology, 2-1-6 Etchujima, Koto-ku, Tokyo 135-8533, Japan (東京海洋大学海洋工学部海事システム工学科)

ぎ、そうすることで神聖なる彼は、それまで乾いていた土地に水を放出し、存在させたのであった。今や彼、聖なるケヴィンは、完璧な信仰心の強いキリスト教徒と認められており、この永遠に清らかな聖なるシスターである [606] 水に対し悪魔払いをした。そうするとこの水は、十分な理解力を持って、この浴槽祭壇の中頃の高さまで満ちることになった。この祭壇浴槽を、聖人中の聖人ケヴィンは、移した水の同一中心の中央で 9 回崇め奉った。すみれ色の宵の明星が落ちると、その水の中で水を愛する聖人ケヴィンは、丸々太った腰まで届くクロテンの毛皮でできた法王の着る外衣を着て、厳かな終課に、英知の場であるこの水の入った浴槽の中に腰を下ろし、その後は常に、一般的な教会に属し島に住む再創造された教会博士であり、瞑想の扉の番人であるこの者は、記憶によって思いがけない暗示を受けたり、また知性によって本格的な考察を行ったりするなか、隠遁生活に入った彼は、神々しい熱意を持って、絶えず洗礼という最初の秘跡と、注水による人類の再生について沈思黙考した。その年も。

船よ、暗礁の儀式に心を配れ！補助となるブイよ、消え去れ！よく注意せよ。雲のない天の下での、3 つの頂を持つベン・オブ・ホースから見える類い稀な光景は、【海側とは】反対側の端にあり、その霧や風に対してあなたが祝福の言葉を贈り、それについて家に手紙を書くことを求めている。この 3 つの丘は、1 世紀も前からそそり立っており、すてきな鳥かごのようになっている。もしブリストルの街を知っており、丸石が敷かれたその古都の手押し車の通る道や 11 箇所曲角を苦労して歩いたならば、心の中にペニー、ノックス、ゴアというその 3 つのホースの丘を浮かべらるであろう。この丘が 3 つともずっと名前を変えなかったかどうかということは、十分明らかになっているわけではない。その 3 つの丘の形状はよく知られたもので、暗闇の中でそこに明かりがつく魅力的な様相は、人に満足を与えるよくなじまれている姿とはまた違った新鮮な趣となっている。オオ、幸福なる罪過。アア、あの妖精のような二人の娘。この 3 つの丘で最初に自らを探求に捧げた者は実際あの幸運な男【HCE】で、彼のことはあの世紀の大裁判が第一日から明らかにした。例えば、その行動様式、嫌な体臭、入れ墨模様が一人の人物の主要な特徴となっているのに、ペンの跡がつくインクを前もって使い、人目に付かずに折り畳まれてある新聞のうち、そのことについて書いてない新聞などどのような新聞だろうか、どうだろう。結局この男は、まさにプランクインがその独特の爪のような指を見せ始めると、よぼよぼ爺さんが足を引きずって【見】に出てくるような、まさにそうした土壌から出てきたのだ。ともかくこの放浪者は女の派手な赤いスカートに誘われ、明らかなベチコート偏愛症が出て、悪夢の道を忍び歩いた。【それに引き替え】ゲーム狂であるあなたは花に少女たちが群がっていても、私と同様ポーカーをしていた。彼はせむし、いやずんぐりむっくりかもしれないが、例えば

馬に乗った船員には、一種独特の雰囲気がある。我々は彼が活動するのを見るやいなや驚いてしまう。彼が石灰石を運んでくると、[607] 彼と同じような姿で我々は一かたまりでミサに行くことになる。これが老船員【HCE】の話だ。我々作家たちは数多くの嫌悪すべき好色漢、それも後天的な悪ふざけの気のある軟弱な酒場の主人の真実を優先的に暴き出す。事実を。あのこざかしい頭を切り落としてやる。実際マクール家のモットーは「偉大な罪人、よき息子」なのだ。手袋をはめた拳（怠け者）というのが 12 月 4 日以前に彼らの聖職の家系に導入された。そして少しばかり奇妙でさえあることは、神の家であるベテル出身のヤコブは不機嫌にパイプをくわえていたり、メソポタミア出身のエサウは借りた燃料入れ容器を人に貸し出したりして、4 人の時計職人全員が、1 時間が経過する毎に使徒たちを象徴化【して仕掛け時計に登場させる】する前に、まだ休んでいるということだ。【しかし】次のことは最初で最後の宇宙の謎だ。つまりある男は罪なのに罪でない【と考えられている】のだ。見よ！我々の屠殺人らが彼らの住みかを離れ、あらゆる人に対して公正さを大いに満たす英雄の道を。それは老いたチャペリゾッドの住民【HCE】にとっては、彼の引退の兆しを求める彼らの合図、若きチャペリゾッドの住民【HCE の子供たち】にとっては、活発に動き回り、フィネガンの通夜の席でパートナーに愛と楽しみを教える合図だ。

【HCE の ALP に対する言葉】そしてもうその時間だ。タイトルは、その時間になった、というもの。私の掘り進み【セックス】が君の奥の垂れ毛に達する時間なのだ。古ぼけたものはうんざりだろう。私のはよかつたろう！私は君の肉体を求める。私のものは君の必要としているものだ。これが私だ。私のスヴェア【スウェーデンの一地域】の女よ、私たちは正常位の結合でお互いからみ合ったが、ここから私は昇華しなければいけない。私の英語が下手で申し訳ない。すまない。心から謝罪する。未だ非常に疲れているのだが、今何時か。

ハ！

太陽の光が薄闇に勝っていく。夏の風が起き、弱まり、嫌いになってしまう。うれしいことに、爽快な雷光と雷鳴とともに闇の支配がゆっくりと終わり、薄暗いのは階下の部分だけとなり、すぐに静かに霞がなくなり、窪地からホテルが現れる。この陽光王一世【太陽のこと】が（バンティング海軍大将およびブレア空軍中佐臨席の元）次第にテンプル・パーの上に現れるであろう。そこで彼【陽光王一世】は、今や氷のように冷たい、島々の市長たる「濃い」霧から、大いなる歓呼の声を受けたのだが、彼のシークインで飾った胴体には懸かっている雲が、サンボンネットに懸かっていることに困惑しているように見えた（証拠物件 39）。昇れ。

ブランチャードの街の新聞をどうか一部下さい。神よ、我々に慈悲を。偉大なる老グラッドストーンよ。あなたの宴会を終わりにしてくれ。

[608] いいかい、それはこの曖昧にしか見えないものについて、単に一つのありふれた見方に過ぎない。イギリス科学協会に属する気象学者の、科学の進展についての賛成発言と同じようなものだ。というも、君、小声で言うが、本質的には（この言い回しはなんてデタラメなのだろう！）、君の目の前で、まさに一人の服地屋【HCE】と二人の下着姿のアシスタント【少女】と三人の騎兵、調査官、奉仕団員【兵士】の姿が消えつつあるからだ。これらの人物は勿論、一人はアーサー伯父、二人はニースから来た君のいとこ、そして三人は（今のところ幾分憶測なのだが！）我々の知人であるピリーヒーリー、ポーリーフーリー、ブリーハウリーであり、血圧が高いとしてシガード・シガソン血圧計協会が不法にも驚いた人物なのだ。

悪夢を見ているんじゃないかね。

ハハ！

このミスター・アイルランドはどうか。生きていますか。そう、そう、そのとおり。あの親方はね。

石の叫び声、つまり悪事の露見【についての夢】は、年老いた弁護人であるあの某氏たちの手にゆだねられた例の事柄を寝て忘れようとする生命維持器官を、縮み上がらせるものであるが、アリーナ【雌鳥の意味、すなわちALPのこと】の声は、栄養価の低いミルクじみた量の多い中華風雑炊に、ベッカー・ブrossの店で売っている紅茶や、その紅茶の中に福州産の茶を入れたものがついて出てくる、あの魔法のような朝の【食事の】夢を心底見ている人【HCE】を喜ばす。【そうした夢を】見たことがあったか、見なかったか。見なかったが、何かそういったものを見覚えているような気がする。【初めは】ある種の完全に三本足のもので、次にそれはおそらく骨盤とかそういうものに似て、それから多分雄鳥のような形の鋭角の四角形のような姿で、その後は、王国であるアイルランド風の高級な靴をはき、積み重なった茶の葉の中にそれを入れて横たわっている、何とも言い様のない女の姿だった。そのうえ、かつてここにあったこの世界【夜の世界】に、【夜のときよりも】もっと多くのもが未だ生成しつつある兆しがみえる。陽が昇ってその兆しが明らかになっていくにつれ。ナッテンデン・ソルテ号という黒船【夜】のあとに続いて。このとき通夜の一週間は、うまく段取りをつけられながら終わる。燃え残りの灰から興った弱い灯心が猛火となるように、フィネガンは目覚めるのだ。

移ろうとしている。一人が。我々は移ろうとしている。二人が。眠りから我々は移ろうとしている。三人が。我々は眠りからすっかり目覚めた世界に移ろうとしている。四人が。来たれ。我々の世界へ。我々の世界となれ。

しかし未だ。アア、何ということだ。ではじっとしている。

[609] ギアもクラッチもなく、完全にいつともどことも分からずに、生まれつきけちな根性の民衆を威厳ある紳士階級と混在させながら、白髪の伝道師を少年のような肌をしたお下げ髪の娘と混在させながら、唇がかわいい娘を目元

の優しい別の娘と混在させながら旅したこと【夢を見たこと】もまた心豊かなことであった。あり得ないことを無益に追い求めている、将来の有望性もない数多くの人々のように。マタイとともに、その後どうかマタイ、マルコとともに、そしてその後どうかマタイ、マルコ、ルカとともに立ち止まり、そしてその後どうかどうか、マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネとともに立ち止まって【思い返して】いただきたい。

それで、もう一人の奴のことだが。アア、そうだ、斑のロバか！このロバは灰色の毛並みになることを望んでいるであろう。そしてカエサルと戦ったゲール人の頭目ワイジングケタオーリである彼は、率直で声高な「放浪を愛する吟遊詩人」となることを望んでいるであろう。花のロジーナ、もっと若い花の実のアメリリス、一番若い花の実の葉のサリーシルあるいはシリーサル、家の屋根が天空である彼女たちは絶え間なく、光沢ある石壁に掛かるステンドグラスのような多くの窓の前を通り過ぎ、簡単に言えばウィンズ・ホテルを頼り、そこに赴いている。ブルベック、オールドブーフ、サッソンドイル、ジョージ・アップピガード、ムンデロンド、アビートツテ、ブラッキーツイッテ、ホッキーヴィラ、フォッキーヴィラ、ヒリウィル、ウォールホルの各分館のホテルを頼り、そこに赴いている。フージャフの支配人は感謝祭を執り行うであろう。【ロバの周りの花は、ホテルへとずっと連なっている】【朝は】まもなく開幕する。その時昇った太陽のメッセンジャーが、（他の張り出し窓を見たまえ）目に入るものすべてに色合いを与え、聞こえるものすべてに大声を与え、光景一つ一つをスポットライトで照らし、出来事一つ一つに時間を与える。その間我々は、我々は待って、我々は待っているのだ。彼を。

（ミュータ）主【聖パトリック】から立ち昇るあの煙は何なのか。

（ジュヴァ）やかん頭が朝っぱらから煙草を吹かしているのだ。

（ミュータ）聖体の前で煙草をふかすなど、彼は自らを恥ずべきだ。

（ジュヴァ）この人物は眠りの長で、闇を支配しているのだよ。

（ミュータ）威信の墜ちた長という訳か！あの歩み進んでいる群衆の中で、彼を認めることができればね。

（ジュヴァ）よろしい！あの仏僧の姿をしたキリスト教徒の上陸者だよ。キャブラの死の戦場で指揮した、穴居者であり銃撃者であり、退屈なイギリス人移住者さ。

（ミュータ）仏教徒の類人猿という訳か！恐ろしいほどたくさんいるドルイド教徒の雑踏の中に、背の高い、同じ場所に立っている奴がいるね。

[610]（ジュヴァ）パークリーだ。根本的にすべての成り行きを嫌悪している。

（ミュータ）体が硬直している！激しい怒りようだ！あの記念碑の下から再起しているのは一体全体誰だ。

(ジューヴァ) 僕の言うことは絶対に嘘じゃない！本当のことだ！レアリー王だよ！

(ミュータ) あらゆる人を支配するために再起したのかね！彼はケルト人を掌握している！

(ジューヴァ) 容赦なく！彼の杖の先まで。従順な市民というのが、我々の「はさみ虫」のフェニックス【レアリー王】のモットーだ。

(ミュータ) なぜあのような最高の笑みを、レアリー王はいつもの唇に浮かべているのか。

(ジューヴァ) 絶対的な確信があるからだ！いつもそうなのだ！彼はパークリーの奴に半クラウン賭けているが、ユーラシアの将軍中の将軍【聖パトリック】にも半クラウン賭けている。

(ミュータ) こそこそとね！つまり真の正当性は、シニカルにもパラダイスをもたらす賭けという訳か。

(ジューヴァ) 競馬ののみ屋を生かすためにパラダイスは捨てよ、か！

(ミュータ) 君は確実な馬に金を賭けるのか。

(ジューヴァ) 穴馬で儲けたいんだけどね！

(ミュータ) のどが渇いているのかね。彼はがぶ飲みしている。何を飲んでいるのか。

(ジューヴァ) 乾いているんだね！水を飲んでいるよ。水を。

(ミュータ) 宗教戦争の中でそうしているのか。

(ジューヴァ) 酒、女、歌、の下でだ。

(ミュータ) そういうわけで我々は、統一を得たときには多様に移ろうとし、多様に移り終わると闘争本能を得てしまい、闘争本能を得てしまうと融和の精神に戻ろうとするのか。

(ジューヴァ) 天の高みから下された輝く理性の光によって、そうするのだ。

(ミュータ) では湯たんぽを貸してくれないか、コンドーム君。

(ジューヴァ) どうぞ、これが寝床のあんかになればいい、鉄砲屋君！

突っ走れ。

「論争広場」のリズムと色合い。グランド・ナショナル【英国の競馬】で敗れたペレドス【競馬馬の名前】。テレビ放映される競馬の勝者。ダブリンの新しい舞台における普通の芝生の上での格闘。「私は来た、見た、征服した」というカエサルを思い出す。二人【パトリック、パークリー】は近寄る。[611] ヘリオトロープはハーレム出身。三人【パトリック、パークリー、レアリー】の結びつき。抑え専門の騎手が侵犯馬ジェイクを引っ張ってくる。パドックのパトリックとブッキーのパークリーがしゃべり合う。

では以下詳細を掲げる。

その後。しばらくして、牛追いのように精力的で、炎のように情熱的で、2ペンス数シリングのように控えめで、地位が高く、神のようで、仕事熱心な男のパークリーは、ア

イルランド宗教界の崇拝の対象であり、ドルイド教の僧正であるが、虹の7色に仕上がったマントを着て、彼の丁寧な客である長白衣姿のパトリックのところに姿を現す。パトリックの喉は、周りの司祭平服を着たフランシスコ修道士と声をあわせ、聖歌をハミングしている。パークリーは、聖パトリックと一緒に仲間の修道士たちが全員賛美歌を歌っている中で、姿を現してからほとんどずっと、いかなる人間も自由ではないとは言わないまでも次のように述べて、言葉を飲み尽す。即ち、次の日になっても事が元通りにはならない時まで【つまり永久に】、主たる神のスペクトルである、色合いに満ちたすべてが可視的な世界——鉱物から野菜、動物に至る地上の家具——の、分光作用を持つ膜を通して現われるあまりに多くの幻影すべては、これより下はないほどに墮落した人間の心を皆満たすようには思われず、太陽光線の7つの層の中のたった一つが反射したものに過ぎなく、その（世界におけるあらゆる色合いが備わっている）光線の一部が吸収されずに現出したもの（世界におけるあらゆる色合いが備わったものの一部）に過ぎない、一方存在物に関して第7の英知を有する至高の目を持った者には、現実の真の内奥、存在物の真なるそのものが分かるのだ、（この場合）あらゆるものは、すべての側面を見せ、実際にはそれらの（世界におけるあらゆるものの）内部に唯一の色合いとして保有されている、六つ一組の栄光ある光に輝く真の色合いを持って現出する、と説いたのだ。ローマ・カトリック教徒たちは凡庸な人物たちで、やがて現れた、炎のような情熱家で、2ペンス数シリングのように控えめで、高い地位にあり、神のようで、仕事熱心な男である太っちょパークリーが、聖者パトリックおよび聖人たちに対して、二度立ち止まって心の癒しを与えるような言い方で、別の言い方で言えば、変わりゆく歌を歌うように、あるときは呟くようにゆっくりと、あるときは耳障りなくらいに早く、緩急を織り交ぜ、同じ言葉を繰り返しながら、彼らに対して言ったその教条書のような言葉を、事は明日になっても元通りにはならないということをさえ、理解できなかった。一方パークリーを理解しようとする者【パトリック】は、徐々に頭がはっきりとしなくなりながらもますます熱をこめて、あの心配性であり憂鬱症である高貴な卓越した王レアリーのことをまざまざと目に浮かべていた。彼の頭に生えている、燃えるような草【髪】が、全体的に緑の草本のカタバミの色合いを示している様子、また、自家製の梳毛糸でできた彼独特の6色の衣装であるニッカボッカや、その仲間の濃黄色の小さなキルトが、ゆでたほうれん草の色のように見える様子、[612]パトリックは自発的に口を閉じていたものの、彼には理解できない他のことである、彼独自の二つの金色の胸飾りが、まさに葉の巻き上がったキャベツのように見える様子、さらには、懐疑的思考傾向者には失礼ながら、彼、高貴なる王レアリーの手元においてあった緑色の傘が、パトリックの言いたいことだが、特に夥しい数の月桂樹の葉にそっくりである様子、そ

れに加えて、最も高貴な王の開かれたブルーの目が、パセリの上の波状のジャコウソウのように見える様子、我々の不快感は張りつめてはいるものの、もしそちら様がよくないなら話すが、この高貴なスルタンである皇帝の呪いめいた人差し指にはめてある、いまましい厄介者の魂であるエナメル製のインドの宝石が、たった一つしかない黄色味を帯びたオリーブ色のヒラマメのようである様子、さらにそれに加えて、高貴で偉大な卓越した貴族の顔にできた戦いによる紫色の打撲の痕が—純度の高い色合いと十分な明度と強烈な彩度をもって—、まるで数多くのカンナやカラゲツメが切られるのを見るように、霧がかかって顔中一様に紫色になっている様子、これらを【パークリーの説明を聞きながら】目に浮かべていた。万人に通じる人物がここに来る。パトリックなのだろうか。

結論。この偉大なる先覚者【パトリック】は、このけちな神父【パークリー】に対応し、彼の言い分を混乱したものの、下らないものとして一刀両断した。次のような状況なのに、彼の言葉をご立派なものというのは馬鹿馬鹿しいというわけだ。つまり哀れにもこの物事を白か黒かに分けることしかない単純な頭の太っちょが、そのような考え方で、後天的に【つまり自分たちが得た経験から】分光器のように物事を分類し、人間の目が見る色という不完全な壺の中の基調色から天上界のことを先走って類推するなど、誤った類推で麻痺した推論を導き出しているという状況である。(目下のところ物事の見えない僧たちは賢者のあり得る真実性と、聖者の蓋然性のある論破との間であわてふためき、どちらに与することなく、完全に放心状態であった。)【パトリックが言うには】それは例えば自分の妻も自分も知っているように、MyをMeとするようなものだし、シャムロック模様のハンケチをその持ち主自身とするようなものだ。紀元前432年に【パトリックが上陸して】協定を結んだこと【布教を始めたこと?】は人々の心を強くし、虹【アイルランド】を(パトリックは膝を折る)、偉大なる虹を(パトリックは跪く)、最も偉大なる偉大なる虹を(彼は一層深く跪く)救うことになるようだ。この虹は、太陽が。人間に。投げかけ輝かす火を表す、広い、広大な世界における健全な感覚的シンボルなのだ。

これはことであつた、子をなす者よ。これは重大なことであつた、生まれ出た者よ。これはきわめて重大なことであつた。全く本当に。狭量なパークリーにとってさえそうであつた。彼はイエスの愛を封じ込めようとした。相手を打ち負かし、自分の七色のマントを投げかけようと懸命になった。【マントは権威・支配の象徴】。未来のため、高僧である自分の尊師に対し拒否の親指を突き出したように。

それがドサッ、と崩れたのだ。

[613]「神よ、アイルランドを救い給え！」と民衆が叫んでいた。「神ルランドを救い！」と彼らは叫んでいた。畏敬の念をもって。さらに太陽が昇るところへと踏み歩け踏み歩け踏み歩け。この日から。あなたの息子、我々の愛する

主たるイエス・キリストの力を借りて。そう、司祭たちも歩んでいる。彼のもとへ豊かな賛美歌をハミングしながら。何に対するハミングか。

聖者と賢人に対して、辻馬車と農夫に対して、王と百姓に対して、テントと嘲りに対して。

永遠にドルイド教は去った。それ故今は日の支配が進行している。今日のために。変容に向かっている。テントの祝宴、即ち仮庵の祭だ。テントの設営だ、取りかかれ！シャムロック【パトリック】よ、我々の輝きの中にあれ！我と御身、小さき存在たる我々、あらゆる人をこの大宇宙の中で互いに褒め称えさせよ。いたるところで熱き調和をもって。神の真実だ！

しかし以前そこ【夜】にいなかった者はここ【朝】にもいない。秩序のみが変わった。無は無だ。そのままにしておけ！

耳をすませ。聖者と賢者が言葉を発すると、恩恵を与える【ダブリンの守護聖人】ローレンス・オトゥールの賛美歌が聞こえてくる。

【ここは】苔の帽子のような、稲の葉のような花序の空間、萼と花卉をつけた尾状花序の空間である。【様々な花が咲いている状況】。菌類や藻、苔やシダ、草といった植物が存在する空間でもある。増加しつつあり、生き生きとして、感覚に訴える、名の分からぬ植物の空間だ。それは雑草に満ちた、荒れた夜の世界の、頭蓋骨や遺体安置所といった【死のイメージに満ちていた】場所のあらゆるところに繁茂している。この夜の世界ではレトリバー【獵犬】のラルフが自分の洒落者の拳と、彼女の女神のような太股をもてあそばさうろうろしている。でもいつもの吐きたくなるほどまらずい朝飯を飲み込むときが戻ってきた。そうするとお前【ラルフ】は虹のようにこざれいな可愛い奴となる。これらの花でお椀を飾り、はらわたをきれいにしておけよ【排便を済ませておけ、の意味】、閣下。恨みや不快な激情を持つてはいけぬ。最高に素晴らしい男となれ。汚れなき奴となれ。

健康的で聖杯の騎士のようで、無限に必要とされる者HCEよ！ALPの元へ早く来い、吟味せずにせっかちにものを買う者のように後先を見ずに！恐ろしい雷は見た目には不吉ではあるが、樂觀を与えるものだ。戸外での結婚式にとって素敵の日となるにちがいない。朝と夜は和解することになる。結婚式が開かれるなら。船員【シエム】よ、半ズボンを立て派に作らなければいけない。仕立屋の親方【ショーン】よ、左舷に舵を取ろうとしているな。相当に高級な服を着なければいけない(公的に)。まだ待機して、言われたようにやれ(私的に)。一方夜明けのジャスミンの花およびそれに類する者たち【イシーおよびレインボーガールズ】よ、管、房、蜜からなる花冠よ【植物学者リンネの分類法では、花冠は管、房、蜜からなる】、あなた達にとって、一雌蕊花は彼のものなのか、二雄蕊花は彼女のものなのか【つまり男と恋仲になるのかどうか】、自分ではっきり

と選択しなければいけない。【植物学者リンネの分類法では、ジャスミンは一雌蕊花、二雄蕊花両方に分類される。】蟻であれ [614] キリギリスであれ、貴人であれ農民であれ。ムークスであれグライプスであれ、すべての人の親譲りの衣類が、アンの唯一の洗濯所「石材ロッジ」や「ドラムのドーム」から絶え間なく戻ってくるであろう。ここでの洗濯物は見事に白くなり、仕上がりが美しい。一つ一つの洗濯物が泡立てられ洗われ、いくつかの部分にリンスの跡がみられる。それ故毎回のリンスの結果として、シャツの袖口やネクタイには様々なよじれができ、ズボンにはねじれが生じる。我慢せよ、耐えよ。存在するいかなるものも、今までに死に絶えることはなかったからだ。朝の世界では。テムズ川はテムズ川のままだし、習慣は戻ってくる。あなたの中で燃えさかるために。強い熱意は秩序を求める。過去が存在したので今の生活は存在可能だし、これからもそうなのだ。以前と同じように営まれるのだ。下層の人間でも愚かな奴でも、誰にとっても、また再び血と鉄と【食料の】貯蔵が生存に最適な生活を可能にするのだ。そうした生活は我々全員に要求する。清潔さ、飛躍への真剣さ、衣服、そしてマナーと拍手を。次に。睡眠を。

【朝着的服について】いいセンスだ、結構な感覚だ、着てみると！そのゆったりしたシャツの袖をたくし上げろ。伸び縮みが完璧でよい製品だ。【自分の姿を】何回も覗いてみる。鏡に向かって立って、スタイルを決めてみる。もし売ることがあるのなら、いいかい、私の決めた値段で売ってくれ。新しい人間として、今までに着たことのないものをいくつか合わせて着る余裕を持て。初めての物事をするとはゲームに勝つことだ。

何が去ったのか。どうやってそれ【夜の世界】は終わるのか。

【夜の世界を】先ず忘れよ。それはあらゆる方向から、すべての身振りや我々の一つ一つの言葉から自ずと思い出されるものだ。今日の真実、明日の傾向となって思い出される。

忘れてしまえ、覚えておけ！

我々は期待を抱いてきたのか。我々は【ALP のことを】勝手気ままに探査してもいいのだろうか。どこへ、何を求めて、何故。ダブリンの雑多なものの集合体が、平地を流れるようになっていくリフィーである ALP に集っている。おぼろげに見える神々しいあの女神のそばに。

忘れよ！

全麦用水車の回転のようなヴィーコの循環についての我々の記録者たる四人の塔の見張り役は（たとえ彼ら【の名】がマター、マッコー、ルッキー、ロバ付きヨハネであっても、彼らはあらゆる悪童の男子生徒たちには「ママルージュ」として知られている）、嵌め込み作業のような、製錬作業のような、また超漸進的な作業過程を無意識のうちに身に付けて（その父親とその息子と彼らの地味な規範——卵の爆発的誕生、卵の融合、卵の埋葬、行き当たりばったり

の孵化、といった内容で知られている——のために）、以前に弁証法的にバラバラになった諸要素【存在した ALP の手紙】を、ある郵便の配達経路を通して、まさにあとで再構成しようと引き受ける。それ故プリニーやコルメッタの【ローマ】時代——この時代にはヒアシンス、キョウチクトウ、ヒナギクが、我々の祖国のゴール地方、イリリア、ニューマンチアに咲き誇っていたのだが——以来、活字、文字、単語などを通して [615] 過去の遺産が伝えてきた、【HCE の】エロティシズム、破局、異常行動は、偶然にも多量に電子を帯び、同じ原子構造をもっているとして、古のフィン・マクールと吻合的に結びつけられたり、また同一視されながら、太陽が昇り、コップや皿が食卓に並べられ、ポットから湯気が吹き出すとき、生意気な小男君、あなたにとって明らかになるかも知れない。それは彼女自身がペンで手紙を書き、卵に走り書きをしたのと同じくらい確かなことなのだ。

勿論そのとおりだ。そして実際【その ALP が書き付けた手紙は】どのようなものか。

拝啓。それで私はこれからダートダンプ【ALP の手紙が見つかったところであるゴミ捨て場の意味】に行きます。尊師様。閣下という称号をつけてもいいでしょうか。本当にこの自然の密かな営みを、何よりも私は楽しんできました（私は常にこのことに感謝し、慎ましやかに祈ります）。そして、そう、人生のこの光り輝く時が実に楽しかった。エアウィッカーのことをよくは言わないマグラスの者たちも、彼の美点を知るようになるでしょう。まもなく向こうの雲も、晴れの日を見ながら消えるでしょう。師である説教師様、マグラスの者たちも初めて生まれたときは、彼【HCE】と同じように二本の柄のついた武器【手？】をもって生まれたはずで。あれは私たちが長い車両の路面電車の二階に乗って、ウィリアムズタウンと、マリオン道路とエイルズバリー道路が交わる交差点との間を通っていたときのことで。楽しく乗っていると、彼が雲に消え入りそうな目で私を見つめていると思いました。私の脇で汗まみれで彼が目覚めたときでも、金色の髪を彼を大目に見てあげました。地上の楽園でした。でも彼の夢の中では、私はパントマイムに出てくるような愛らしい表情をしていたのでしょ。私は強い光の力によって、よろめきそうになりながら失われた楽園に戻りました。多量の酒で夢見心地にしてくれる男ではなく、この国の牛乳をくれる男の元へ【現在の HCE】。あのときのことは私にとって糸車の針の刺し【白雪姫が眠りに陥る原因】で、夢の世界への鍵を私にくれました。草むらの蛇よ、立ち去れ。あらゆる軽蔑すべきこうした奴等の頭をもぎ取れるならば、眠っている彼に囁く者たちの頭、即ちマグラスの奴等。奴等のペーコンはバターを汚します。マーガリンの油です。【奴等のペーコンは】薄い、本当に薄い。隣人の妻に甘い言葉をたっぷり囁くことがあってはならないと、榮譽ある十戒で厳格に禁じられています。あのぼっかり穴のあいたドアのところで、

あなたの周りで、そうしたヘドロたちが躍起になって（嘘偽りが恐ろしいほどに彼らの口から出てくる）恥知らずにも仄めかしたことを、私は【耐えることが】できるでしょうか。決して。それゆえこれらの卑しい者たちが彼のことを忘れてくれますように。[616]これから起床しようとしているハックルベリー・フィンたる HCE についてのオライリー一旦その詩の内容に対し、彼らはこれまでになくひどい不法侵害をしたのです。すべてにわたって。彼の最初の仲間がエアウィッカーと呼んだアイルランド人のことで。この【オライリーの】話に様に疑いをもつ者全員が、想像の上だけでも献身的でありますように。一服分のひねり煙草やアイルランド産の金属でできた荒金を手に入れようと、我々は秘密を漏らすこともあるだろうし、事もあろうに、最大限楽しみながら、誰かが誰かを密かに銃で亡きものにしようからです。そして化学結合の一定性とは異なり、画家ピーターにとっても、HCE の排泄物すべてを使っても、普通の人を描くのに本来の 75 分の 3 の姿も描ききれないのです。【誰であれ人間の心理には未知で定まらない部分があり、裏切りも起こりえる、ということ。】神に誓って本当のことであり、あの 3 人のトルコのサルタンは何と罪深いのでしょうか、そしてあの二人の小さな修道女の妖精は何と人を裏切ることでしょう！彼らは薄い緑色をした灰だめ用の酢酸鉛です！平穏を与えたまえ！我々が見る特権を持っていた最も他人を引き寄せる魅力を持った子供であったときから、彼は【男らしい】完璧な胸毛と背中のごぶと目の弛みをもっており、セールスレディーの親愛なるお相手になろうとしていました。それは彼が実際専心していたことです。爬虫類がのたくっているのに注意なさい。あの蛇たち全部に対して私は胸が悪くなります。それにもかかわらず彼らは何ら抵抗なく、ずっと害虫らしく振る舞っていますが、私たちはただただ迷惑を受けても文句を言いません。いや、皆にちゃんと分かってもらえるように、このことにも注目してもらいたいと思います。

あの好色なフン族【マグラス】について、奴がゆで卵用コップの大きさを知っていることについて【書きます】。初め奴は一頃セールスマンでしたが、その後クルーン社は言行が生意気だと言って奴を首にしました。ソーセージについて経験を積めということです！統計は奴が食卓における株の下がった話題の種であること、また昔からあるこの会社の太った子鹿の肉が、この都市の住民から非常に評判がいいことを示しています。だが私は労働者保障法に人々の注意を引きたい。私たちの中の魅力ある人物たちというのは、有り余る数のパラサイトたちによって偽の物事をでっち上げられるのです。問題のこの人物【HCE】の当初の願いは瘰癧の緩和だったというのに、三人の兵士の前で悪い見本を見せてしまって、でも大目に見てもらえる余地は確かにありました。状況は法廷が権威を振るうこととなりましたが、彼がその後いかにこの状況の進展を見つめていたことか。海神のような彼の堂々とした態度。いかなる

泥棒行為も、海神の態度であれ彼の態度であれ、そうした堂々とした態度を必要としないことなどありませんでした！いったんこのバラッドに対して防御ができれば、霰や氷や飛び道具を当てられてもその苦悶に平気でいられます。ラグビー場に行って興奮する前に心の秩序を。聖ロレンスに最良のことを叶えてくれるように願いつつ、この手紙を閉じなければなりません。モラルを言っておきます。ストアズ・ハンフリー夫人曰く、ボンダップスよ、それ故おそらくあなたは、問題ある家庭サービス【家政婦のこと】が原因でトラブルが生まれるのを予期しているのですか。ストアズ・ハンフリー氏曰く、[617] 天に神がいるのとまさに同じくらい確かに、リヴィアよ、私の小切手は白紙なのだ【自分の行動は自由である、という意味か】。完全に。つまり、1、2、4 の 3 抜けの 3 人の兵士。密告者たち。兵士たちの半ズボンの尻をたくし上げなさい。最終的にこの手紙の中で、わざわざ骨を折って下さった最も親切なあなたに対して、私は最大限の敬意を払って、111 プラス 1001 の祝福の言葉を捧げます。私たち家族は皆昔からの偽り【の世間の】中でお互いをたよりに家庭生活を営んでいます、デー人【HCE のこと】よ、ありがとう、私たちのために尽くしてくれて、十分な金を持っている限り人生の最後まで愛に忠実な、数ある夫の中で最も忠実なわが夫よ。位置や場所は忘れがたくとも、人を記憶にとどめておくことは不可能です。頭が吹っ飛ぶほど怒鳴って、フーン・マクロー兄弟【マクールとマグラスとの混同】という変人のような、特に卑しい鼻持ちならぬ奴のことを記憶に呼び出す人がいるのでしょうか。豚肉の殉教者たるあの怪しげな奴のことを。あの訳の分からないおしゃべりのすごさ！トモシーとローカンの兄弟、胸くそ悪いオトゥール信奉者め。寝ているうちに性格が変わった今、奴等は両方合わせてティムソンです。もし情報が正確に伝わったなら、コナン・ドイルみたいな人物たちが奴の一日の生活を探るでしょう。アウトローのマエストロ、どうか音楽をやって！バンドの下稽古をやみましょう。歌って！私たちはただ笑っていればいいのよ。老いていく奴を御覧なさい！お幸せに！この音楽によって奴は目覚めるはずで。奴は怒り狂った正義をふりかざした殺し手たちに、自分を正してもらいたがるでしょう。保身に汲々とした下僕野郎。あの高慢な悪漢は、喧嘩口調でずっと馬鹿なことをまくし立てていました！今はもうこの男は人生最後のプディンを腹に詰め込みました。奴の葬式が今日の 6 時までに行われるでしょう。王も参列なさるでしょう、ビール醸造所の社長も来るでしょう。市長官邸や近衛騎兵旅団本部に肖像画が飾られ、ボストン・トランスクリプト紙と同様モーニング・ポスト紙にも写真が載るでしょう。12 歳くらいから 28 歳くらいまでの女たち【の参列者】が主に来るでしょう。愛に溢れた、生まれつき紳士的な牧師である哀れなマイケル神父の言葉を聞くために。忘れてはなりません。盛大な葬式がすぐに開かれるでしょう。覚えておいて下さい。遺体はきっかり 8 時まで



片づけなければなりません。大きな期待を抱かせながら。この日まで眠っている人について証言するのを助けて下さい。閣下の最も忠実な者より。

さて、この手紙で今言ったこととともに、他のある聖職者の悪者についても名前を出さずにお知らせしましょう。この犬畜生のそばにはいたくないのですが、そいつは私のもう一人のゲス野郎になりたがっています【彼女の愛人になりたがっている、ということ】。この話をどう思いますか。世界で一番甘美な歌でしょうか。私は生まれつき赤褐色の髪で、少女の頃、初めから容姿を大層ほめられました。既婚女性の不道徳法について語りながら、ある文通相手は、【彼女は】甘い匂いがする赤褐色の流行の髪型の髪を真っ直ぐ垂らしており、[618] その無邪気な目に似合っていると指摘しています。何と巧みにできあがった流行の髪型でしょうか！マグラスの者たちが皆処女を新聞社の実力者ハームワースのように扱ってくれさえしたら！少女たちにとって目出度い話です！ミカエル祭のことなど気にしちや駄目です！それより私とおしゃべりをしましょう！あの大樽野郎の妻であるリリー・キンセラと一緒に買ったキャッドも——彼女がああ陰険氏の妻となったのは、あの子魔の弁護士のものになって有名になろうとしたからですが——今は優しくしてくれるでしょう。今宵限りの王子にすぎないけれども！あの薄く塩漬けにされた生気のない太鼓腹野郎、古臭く筋っぽい9ペンス野郎。ビリーズ・エイカーの墓地から脇に入ったところにいるこれらのごろつきども【マグラスの者たち】は、サリーが束ねています。ブート・レインの愚連隊。そしてリリー・キンセラはある菓を、飲食店主のところの酒のビンに入れてもって来させました。恥ね。三重の恥ですわ。この靴屋【サリー】は、今のところスイート病院に入れて出さないほうがいいと言われていました。いつの日かP.C.Q.で4時32分か、8時22分5秒に、四季裁判所の主事や事務員、そしてまた「復活者マリア」の人たちと一緒に、レターボックスから【彼の部屋の】中を覗いてご覧なさい、聖パトリックの煉獄という名の立派な万能のトンネルの代わりとして。すると驚いたことに、グランドピアノの下でリリーがソファの上で（何と淑女なのです）、はいている下半身の衣類を引っ張っているのがまる見え。キャッドも弁護士の仕事以外にも、キスしたり鏡を見つめたりするなど愛が訪れるとどんなふうになるか知って、驚いてちょっとばかり跳び上がり始めるでしょう。

クバノラ・グライドの歌を口ずさみながら、ウォーターロードをあらゆる方向に歩いていると警官や皆が私にお辞儀をするのに、【ごろつきどもには】私はあまり丁寧に扱われなかったのでしょうか？ここだけの話ですが、皆私のお尻に対してさえお辞儀をすることがあるのに。ヒラリー・アレンが夜の初日のコンサートで歌ったときのように。さらにまた、私は椅子に縛りつけられたことは一度もなかったし、また感謝祭の日に、フォークをもった男やもめに追いかけて回されることも決してありませんでした【魅力ある

女として取り扱われなかったということ？】。偉大な市民【HCE】（彼にとっては誇り高い生活です）にお会い下さい。彼はお酒が入って向かいの席に座ったときも、いつも紳士的で少し非常に愛情深い人です。それなのにサリーは、本当に腕のいい靴直し屋なのに、酔うと関わっている人全員にとってひどい人間になります。今後苦情をララセニー巡査部長に言おうと思っています。その結果そうした手段をとったことで、彼は健康を失って老人のようになり、その生活は、キリスト教世界から締め出されてきたノルウェー人の生活ほどにまで変化するでしょう。

さて、私の話は、ある完璧な人間【である夫HCE】についての、[619] 彼がハンプティ・ダンブティという名のビールを数杯たんまり飲み、刻み煙草を吸ったあと、自然の最高の営み【セックスのこと】を行うといった、もっと高尚な話をするので再開されるでしょう。一方、誰であれ独色のあるパンケーキが好きな人にとってみれば、パンケーキの一片が食べられるのは、私たちの父親であるアダム、最初のフィンのおかげです。彼はグリフィスの評価値によれば、素敵なクリスマスの贈り物をしてくれたがゆえに、この上なく太っ腹な教会人なのです。

さて、私は私のダブルベッドの中で、彼ら土著人【HCEとALP自身】のお尻の頬が、リズムカルに揺れ動くのがただただ好きです。ひょっとしてハンプティ・ダンブティのように落下するのではないかと、彼【HCE】もまた気にしています。ここで付け加えて言えば、品行方正になったと保証されている人々は、自分の話を聞こうとしない人でも非常に好ましい人に対してなら、おそらくちゃんとうまく自分のことを伝えるでしょう。ここにあなた方への答えがあります！皆さん。私たちは二つの世界に住んでいます。ホース岬の丘にとどまっている彼は、別の世界の人間なのです。名だたるエアウィッカーというのが彼の真の名前です。彼は自らを上昇させ、直立させ、自信にあふれさせ、英雄的な姿にするでしょう。しかしこのとき、私が日々告解していることですが、年をとっているものであれ若いものであれ、彼には女が言い寄ってくることでしょ。

アンナ・リヴィア・ブルーラベル。

追伸、兵士ロロの恋人【イシー】のこと。彼女は童歌にほとんど飽きてしまいました。ホテルリッツのような家の豪華な部屋で、見目麗しく着飾っています。ぼろを！すり切れたのを。でも彼女は未だに着飾った人間の琥珀でもあるのです。

穏やかな朝ね、ダブリンの皆さん。リスプ。話しているのは私リフィーです。リブフよ。分厚く、分厚く、すべての夜が私の長い髪に落ちている。何の音もたてずに落ちている。耳をすまして御覧なさい。風も、言葉もない。たった一枚の木の葉、一枚の木の葉だけ、そして何枚もの木の葉だけ。森はいつも優しい。私たちが森の赤ん坊であるかのように。そしてそうコマドリも鳴いていた。私の金婚式のためね。そのためでなければですって。消えてなくなれっ

てことね。ご主人さま、起きなさい、あなたはもうたっぷり寝たわ！それとも、私にとってそう思われるだけかしら。考え込んでいるようにうつ伏せになって。頭から足まで体を伸ばして横たわっている。パイプを火皿にのせたまま。三時課はのらくらやり、六時課は楽しくやり、九時課は遊興にふけたコール王のように。サア、起きなさい、起きなさい。超脱の世界は終わったのよ。私はリフィーよ、あなたの黄金—あなたは私のことをこう呼ぶけど—、願わくは私の人生が、そう、あなたの黄金、あなたが私のことをそう決めつけるなら、大袈裟な人ね！あなたはそうして嬉しいのね。私の方は恥ずかしいわ。しかしあなたの中にも偉大な詩人がいるのね。お偉いさんのストークスも表向きそう受け取るでしょうよ。そう、この人はあなたを退屈させたのと同じように私を退屈させ、眠りに誘ったりもしたわね。しかし私はちゃんとしているし、くつろいでもいるわ。ありがとう、出っ腹のあなた、ありがとう、神様。私を助けてくれて。私を助ける者は、あなたをも助けるでしょう。ここにあなたのシャツがあるわ。【ナイトシャツ、すなわち寝巻きと異なり】日中用のシャツよ、【着替えて出かけて行って】また私のところに戻ってきてね。ネッククロスとカラー。二重底の短靴もある。ウールの長い襟巻きも。そしてここにはオーバーオールもあるし、でも傘もあるわ。[620] 堂々としてね！真直ぐ背筋を伸ばして。私のために見栄えよくしてほしい。新しいブランドの大きな緑色のベルトなどで。ごく最近はやって、またとないもので。利するところが多いわよ！誕生日のスーツを着るときは、そばのローゼンシャロナルの店がほとんど役立ってくれた。たっぷりして、現金で57シリング3ペンスだった。貧乏なアイルランド娘と一緒に、誇り高い、金持ちのイギリス人といったところになるでしょうね、これらを身に付けると。誇りと欲望と羨望を生む！あるいはあなたを見ていると、昔、私の【かかった】偽医者思い出す。あるいは耳に飾り輪をつけた、伊達男の船員のようだわ。あるいは彼【HCE】は伯爵だったのかしら、ルーカンの。それとも、違うわね、つまり鉄人公爵ウェリントンじゃないわね、あるいは暗黒国家から来た他の誰かのよう。こっちへ来て、しましよう。私たちはいつもしようって言っていたじゃない。それで他の国へ行きましょう。多分アスグレアニーの方角ね。子供達はまだぐっすり。今日は学校がない。この子供たちは正反対にできている。長男は心配性。彼は色々悩むでしょう、そして旅に出て心を癒すでしょう。ガリバーのように。間違っただけが彼らが変わることがない限り。目のきらめきが似ている。類似点がある。しょっちゅう見つかると。同じよう。時々。新たな似ている箇所。二人の兄弟は北と南ほど異なっている。一方がため息をつき、もう一方が叫ぶとき、これは【どちらも】あなた似なのよ。いかなる平穩もない。おそらくあの二人のしわくちや婆さんの伯母が、二人を洗礼盤へと抱き上げていったのでしょうか。奇人であるかなりのせっかち夫人と、変人であるミス死に損ないの

石ころ。彼女たち二人は数着の良質の衣服をもってはいても、人前に出るときはこれ以上はないという汚い服。ローダーデイル・マンションから来た人の身なり。【シエムとショーンのうち】一人は聖なる男子のよだれかけを見つめ、この子のほうはおしっこを漏していた。ダブリンの人々に戦争での偉業を列挙したり、心を突き刺すような演説をするときのパンチ【人形劇「パンチとジュディー」のなかの登場人物】みたいにあなたは喜んでた。【二人が生まれたので。】しかしあの【二人が生まれた】晩以降、あなたは随分と理不尽になった！あれやこれやするように私に言い付けた。そして、私に向かって鬱憤を晴らすように、こともあろうに、女の赤ん坊をもてるなら何でもあげるよ、と言った。あなたの願いは私の意志だったのよ。そして、ほら、あんなにいきなり【イシーが生まれた】！あんなふうにとは私もまた。でも、待って、彼女の方に。生まれたいかどうかは、彼女の心の隅に委ねられている。イシーにもっと生まれつきの常識さえあったら。捨て子は家出を産み、家出は浮浪児を産むわね。相変わらず彼女はしやぎまわっている。きっと悲しみは和らぐはずよ。私は待つ。私は待つつもりよ。もしそのとき万事が【うまく】いくなら。未来の姿は今と同じ。イシーは。でもシエムとショーンの二人は【彼らの思いのままに】させよう。ごたまぜスープをはね散らかすし、あの泥だらけのお転婆娘もそう。彼らはあなたの役目で、彼女は私の役目。【シエムとショーンは】あなたを洞穴や港へと引っ張りまわし、【イシーは】わたしに片言言葉を教えてくれる。あなたが彼らに、寄せては返す波について話の糸を紡ぐなら、私は彼女に、山小屋で出たケーキについて長話をする。私たちは子供たちの睡眠の義務を妨げることはしない。[621] 過去のことは過去のことでしょう。ああ、もう過去である夜は終わったのよ。そして太陽の炎が存在するのよ。ここに！昼間の守護聖人ミカエルに太陽の炎を作らせよう。ルシファーは敗れ、死者の書【夜の象徴】は。閉じられたのだから。来て！あなたの殻から飛び出して。あなたの自由になる手をもち上げなさい【太陽にかざしなさい】。そうよ。私たちには光は十分にあるわ。私は聖母マリアのランプをもっていくことはしない。四つの古い風袋のなかに入った猛烈な風の流れが、そのランプめがけて吹きすさぶでしょう。あなたのリュックサック【背中のこぶ】もいらない。背中にこぶのある者全員をハイキングに連れ出し、あなたの後を歩かせるのに。アルクトゥス星を案内役としなさい！地峡を歩くのよ！早足で！今まで覚えている中で、今朝が一番穏やかな朝だわ。でもお天気屋さんのイシーは大人しくしていません。しかし。それも時期がくるまでよ。でも私とあなたは私たちの【子供】を作ったのよ。悪ガキの息子たちはゲームに勝った。でも私は真のフィン【であるあなた】を、私の影として考えるつもり。朝食の鱒は非常においしいだろう。その後食べるダブリンの蒸したジャムプディングはポーランドのソーセージの味がする。ティーの風味を引き立てるため。トー

ストパンをあなたは好きではなかったっけ。オートミールの番よ。暖炉にかかっていたやつ！それから膨れっ面のめかし屋の子供たちが、クリーム菓子を食べて私たちの周りに集まってくる。泣くなんて。大人のお姉さんになったんでしょう！本当に大人になったんじゃないの。お聞きなさい！でもただしね、一回だけのただしだけれども、新しい素敵なガードルをも買ってくれませんか。オリバーさん。今度ノースウォール・マーケットに行ったときに。アイザックセンの店で買ったものが縮んだので、私にとってそれが必要だと、みんな言っている。心に留めておいて。エッ！あなたもそう言うの！そうしてよ！私の小さな手のために、あなたの熊のように大きな手を貸して、ずる賢いお父さん。施し物というわけね。花言葉で言えば、99%使いやすいものを。あれはジョーガン・ジョーガンソンの研究ね。でもあなた理解できた、うなずいてくれる？いつも【あなたについての】物事は、あなたが【セックスのときに】元気があるかないかで分かる。手を伸ばしなさい。もうちょっと。そうよ。手袋をずらしなさい。あなたの手は熱く、毛むくじゃらで、大きいわね！偽りはこの手から始まるのね。幼児の手みたいに滑らかなね。氷で火傷をしたことがあるといつか話してくれた。またいつかは同じようなことをして、化学薬品をかけたと言っていたわね。【仮病を使って寝ていた。】だから頭を抱えていたのね、あたかも。皆あなたが絞首刑を免れたと思っているわ。悪意を持って。私は目をつぶりましょう。何も見ないように。あるいは童貞の若者しか見えないように、小枝の皮をむいている無邪気な男の子、ちっちゃな白い馬の脇にいる子供しか見えないように。永遠の期待を込めた私たち皆が愛するあの子供。男たちは皆何か意味あることを成し遂げてきた。人類にとっての重大な事柄に行き着くまでに。それは彼らにお任せする。そうしよう。教会で早朝の鐘が鳴らないうちに散歩に出かけよう。チャーチャードのそばのあの教会で。平和に暮らす一家の主たちも散歩をするでしょう。あるいは鳥たちが木々で騒動を繰り広げ始めます。見て、あなたの鳥が高く高く飛んでいる。[622]そして幸運を表す鳩が、あなたを呼んで鳴いている、マクールと。ほら、鳩は雪のように白い。私たちのために。あなたは次の女たちの【人気】投票で選ばれるでしょう。そうでないと私は行き届いた花嫁なんかではなくなる。あのキンセラのような女の男が、私を誘惑することはないでしょう。マグラスらしき男とその類いの男たちが、好漢である外国人のフィンの家の周りで騒ぎたてる。室内便器を洋服ダンスの上に置いたり、ティム【HCE】の古い帽子を副総督の【像の？】額にかぶせたりするような。そんなに大股で歩かないで、ケチなこだわり屋さん【HCEとの散歩の夢想】。長い間金を貯めて買った私のレイヨウ革の靴を潰してしまうじゃない。【イタリア】半島の【形の】靴よ。そして最も品質のよいあの二つの靴。それは結び目が1マイル、いや7マイルもあるような不格好な、フクロネズミ色のブーツではない。朝【その靴で歩

き回るの】非常に健康によい。達成感と勝利感をもたらす。全身穏やかな運動。余暇としての散歩のペースで。気ままな散歩による治療は簡単。ずっと昔のことのよう。まるで長い間あなたが遠くに行っていたよう。今日は遠くに、今晩は不安で。暗闇であなたに会ったよう。あなたが言ったことすべてを私が信じているかどうか、いつかお分かりになるでしょう。これからあなたをどこに連れていくか知っている？覚えている？バラやサンザシの実を求めて急いでいたとき。そのときあなたはパチンコで私を気絶させて、ハンモックから落とそうというひどい目的を持っていた。私たちの騒ぐ声。あそこあなたをつれて行くことができるでしょうが、でもまだベッドの中であなたのそばにいる。トラムでダンクリファン【ホース岬の高台】に行かない？いるのは私たちだけ。時間は？私たちは心の重荷を背負っている。【以下HCEの迫害を受けたときの思い出】ついにギル【キャッド】やホールがまた再びならず者に呼び掛ける。残りの悪党たちにも。あちこちで名を汚す者八人。狼たちね、こずるい田舎者たち。この質入れ常習者たちはボールをぶつけてあなたを追い出すことを考えた。また森の主の一角獣である、ノール村から来たキャプテン・バグレイは、むち打ち閣下や槍先師、それにタラとボールホーニスから来た二人の苦痛夫人とともに、謎めいたきつい襲撃用帽子【ヘルメット？】をかぶり、雄鹿であるHCEに向かって鞘を振り上げようと、ドアの近くに場所を占める。でも彼【キャプテン・バグレイ】が飲み終わることの決してない酒を彼らが彼に手渡ししている間に、別れの酒を浴びるほど飲んで高飛びする必要はあなたにはない。このことを頭にたたみこみ、耳に貼付けておきなさい、落ち着きのないエアウィッカーさん。美女は相手にしないし、金持ちは金を払ってくれない。あなたが自由の身になったら、彼らは大騒ぎして追いかけるでしょう。ヒースタウンまでも、ハーバーズタウンまでも、フォー・ノックスまでも、フレミングタウンまでも、ボーディングタウンまでも、デルヴィン川に面したフォード・オブ・フィンまでも。なんと植物園の背後に閉じ込めるために、彼らはあなたを家の中に入れたのよ。というのも、[623]リリー・キンセラが、鏡に映った自分の姿にうっとりしながら、三匹の馬車犬につながれながら帰宅するHCEの姿を見たらしいから。でもあなたは無事に帰ってきた。もうあの酒飲みみの一角【居住地域】はたくさんだ。そして婆さんたちの噂話。オールド・ロード【ホースの伯爵】を私たちは訪問しよう。どう？何か言ってくれるでしょう。彼は素敵な人。彼の前には成功と力があったよう。そして適任の卓越したトリー党員。彼の戸はいつも開いている。新しい時代の日のために。あなた自身の新しい時代の日とほとんど同じような。あなたがこの前のイースターに贈り物をしてくれたので、暖かいザルガイやその他諸々のものをくれるはず。白い帽子を取るのを忘れないで、ネ。私たちが彼の前に出たときには。そして、初めまして、閣下と言うのよ。彼の家は法の家。私

も最も深い敬愛を示しましょう。山【のように崇高な方】が私の敬意におじぎをしなくとも、私の敬意が山【のように崇高な方】に向かっておじぎをします。最も低い段から礼を表すことにしよう。意図的に槍を人目のつくところにお出しになるには何を必要となさっていますか、と言いながら。そうすれば鎧を身に付けた騎士にしてくれるかもしれない。最初の行政長官に任命してくれるかもしれない。ハンガリー出身のバーソロミュー・ヴァンホームライを思い出さない。粋な容姿と市長用飾り鎖、肩飾り、他の粋人らしい格好を身に付けて。そして私は妃殿下になるでしょう。でも無駄ね。つまらない空想ね。空中楼阁ね。私の頭は映画【みたいな絵空事】で一杯。もうたくさん。どちらでもいいわ。彼は自分の切り札を読んでいるし。そこから私たちの辿る道が、きっとあなたには分かるでしょう。植物が生えている【ありきたりの】道。私たちが先に通ったところを、後から多くの馬車に乗ったカップルが通った。この道に拍手を！この道はショーネスの雌馬に彼女の人生をたっぷり味わわせている。死ぬことのない老人と一緒にの人生！フン！ダブリンに通じる岩の多い道。【また散歩の空想？】何となく穏やかな気持ちでヒースの咲く【ホース岬の】ベンに、あなたと私は腰をおろせる。地平線を見ようとして。岬の南端のドラムレックから。見るのが一番いいところとエヴォーラが言ったのはそこだった。いつかそんなことがあれば。朝の月が沈んで消えてしまったときに。グレン・オブ・ザ・ダウンズのあたりへと。孤独な月。私たちしかいない。私たちの魂しかない。救済の場所で。そしてあなたが待ち望んでいる手紙が来るかどうか注意している。そして確信して。夢に見る男のために私が祈っているということ。【手紙の書き方】入門書の注意書きを見て、走り書きし、ざっと書いたの。自分で見つけた【手紙の書き方についての】知識の断片全部を使って。どの手紙も書くのが難しいけど、あなた宛ての手紙は一番の問題事項だわね。斧で叩き切ること、牡牛をつなぐこと、余計な仕事をする【と同じ】だわ、しりごみしちゃうわ。でも一端書き終え、処理され、配達されるなら、あなたは重要な目的物とされる。原本がマサチューセッツ州ボストンにある写しに基づいて。彼の古代世界を経巡った後。[624]茶筒に入れられたり、あるいはねじ釘で打ち付けられたり、コルク栓をされたりして運ばれた。国の事業によって。瓶に入れられブカブカと。粘っこい雫がついて。波【海上輸送】があなたへの手紙を手放すと、土壌【陸上輸送】が私のためになってくれるかもしれない。あるとき、ある場所で、私は自分の願望を書き、その書いたものを、あなたの声以外には存在しない雷のようなあなたの大きな声を聞いたときに埋め、クリスマスが来るまでそのままにしておいた。今は満足している。Lss【Letter-support System 書簡維持装置？】というわけよ。バンガローのコテッジを壊して、また建ててくれれば私たちはまああなたの生活を送れる。ご主人様、奥様である私のためにヒナギクを植えてね。星々が出てくる

あたりを覗いて見ることができる、キュートで、バベルの塔のように高く、丸っこい、そういう塔のついたコテッジを。【バベルの塔のように高いと】ジュピターとその仲間が話しているのが聞こえるのか、ただ知るために。他に誰もいない中で。てっぺんまで登れ、偉大なる工匠さん！頂上を窮めなさい。もう目眩などしませんよ。あなたの家の敷地全部が、塔の上からだどちっぽけに見える！私を持ち上げといてがくつと下げるのは、冷や水を浴びせるのは腹立たしいわね！しかし私はなんら心配していないし、のんびり構えているわ、華麗なる家長【HCE】さん！静穏な社会の隅っこに私は家庭を作った。私にとっての公園でありパブ【のような憩いの場】ね。ただ昔の変な行為は二度としないわね。そういうことをあなたに教えた女の名前を言い当てることができるかも、悪党さん。後になってみると大胆なことをしたのね。罪を犯すことが好きだからなのね。赤裸々に世間様の前で。あの警官の奴はいまましいいことに見て楽しんだと言うわけ！女殺しのあなたも近いうちにまた更生しなければいけない。シエルマーティン【ホースの丘の頂き】は素晴らしい！とても静かだし。持っている中で一番きれいな服を着られて本当に嬉しく思う。あなた、私のことを最高のリーフィー【葉の生い茂った、の意味】と呼んでくれない？素晴らしいあなた！ところでマラスキノ酒が少し入った私の香水オーデコロンに反対ですか。いい香りでしょう！昨日遅い時刻、エスターは松の香りがしていた。誰もが私の香りを嗅ぐ。ホースの人でさえ。最高の価値である神にかけて！町の噂になる。偉大なる略奪者！あなたがどんな人だか私に分かるなら。どこからともなく聞こえてきた声が、あれはキャプテン・フィン・マクールだ、おそらく奴はスーツを作ってくれとしつこくせがんでいるのさ、と言ったので、私は、もしもし、ここには誰もいませんよ、私以外には、と言ってやった。でも私はサンプルの山から落ちそうな気分だった。あたかもあなたの指が私の耳に入ってきたかのような感じだった。二人でお酒を飲んだ後、あなたのお父さんが家の暖炉のなかにいつも倒れ込んでしまったり、お母さんがお酒を飲んだあとベチコートがなくしてばかりいたので、あなたはそのイギリス人に育てられたのだという話を、プレイにいるあなたの弟さんがその地区の人たちにしていたのですが、それは本当のことでしょうか。何はともあれ、あなたは私に対してよくしてくれた！【あなたは】世間に知られた人の中で、ロブスターの殻を食べられた唯一の人。[625]ある晩、私たちの生まれた土地で、あなたは私をマリアヌ・シェリーという人や、その後もXと署名していたあなたの従姉妹と二度間違えた。そしてまたあの日、私はあなたのグラッドストーンバッグの中につけヒゲを見つけた。おそらくあなたはお伽噺の王様のようにふるまうのだろう。きっとあなたがたてる音も、この上なく王様らしい騒音なのね。私は危険なことや不思議なことが出てくる、あらゆる種類の創作した話をあなたにしてあげます。また、この話のなかの私たちが通り過ぎる

場所に、一つ一つ案内しましょう。ようこそ、いらっしやい、歓迎します、これに勝る何がありますでしょうか。真実の中の真実以上に。次のコースのポテト料理のために皿を変えて下さい。スペンドラブという売春宿はまだそこにあるし、教会の規範は厳しくなり、質草を引き受ける質屋のグラフィアのいつもの条件も厳しくなっていて、私たちの共同ポンプからは水が勢いよく出る。【スペンドラブ以降 ALP の創作した話の内容】しかし彼ら【シエムとショーン?】を命名したあの 4 人が、あなたの酒場でいつも機嫌よく飲んでいるのかと、あなたは尋ねるに違いないでしょうね。【ALP の話に対する HCE の質問】こいつらはダニエル・オコンネルの最高の遺物で、『洪水以降のフィングラス』を書いていると言っていたので。この話は王様らしい進行中の堂々たる作品になるでしょう。しかしこのルートで彼はあ朝やってくるでしょう。我々が通っているときに、石と木が音をたてていることを合図して気付かせてあげる。そしてあなたは聖歌をちょっと歌って、それに基づいた説教を書くことになるでしょう。これは頻繁に起こることであり、私にとっても同じ。においます? 単なる泥炭【発音はターフ】のにおいですよ、エアウィッカーさん。クロンターフね。ブライアン・ボルの泥炭地での戦闘【クロンターフの戦い】をあなたは決して忘れることはないわよね。何? たくさんある? あら、茸よ、夜のうちに出てきたのね。ほら、屋根屋根がまだらになって何エーカーも広がっている。堰止め湖に面した寺院と、煙りの出ている人家。オリンピックが行われてもいい都市の一部。スタジアム、コロシウム! 足下に気をつけて。でないとひっくり返る。私がゴミ箱を避けている間に。これを見て! ヒラマメよ。ここを見て! ヒメウイキョウの実。この実は可愛い仲間、愛しい方々です。広い世界に見捨てられた哀れな愛すべき者たちなのではないでしょうか。新しい町の隣人たち。ぼんやり霞んだ状態からダブリンの町がぼんやりと現れつつあるのが見えるでしょう。しかしまだじっとしている以前と同じ都市。随分長いこと私は寝た。あなたが言ったように。結構長い時間かかる。私が 1、2 分息切れがしているとしても口にしないでね、いいわね。一回そうなるとまた起こるかもね。だから何年も何年も苦勞してきたのよ、あなた。涙を隠すために、故人となった方々。私の涙は皆のことを考えている。【命を】捧げた勇敢な人たち。昔の美人たち。いなくなってしまった皆。私は、リフィーとして再出発する。うとうとしていたのね。あなたの目を覚ましてあげたことを、あなたは嬉しく思っているでしょう。本当に! 気分がいいでしょう! これからずっとの間。まず私たちは波に乗ってここに向かい、次にもっと素敵なおことが起こる。二人並んで門を開き、結婚式を行う町に入り、ダブリンの人たちから賛美を受ける! 天全体が私たちを見守っていることを願うばかり。[626] 気を失ってしまいそうに感じるから。気を失って深みへと。大きな沼の深みの中に。あなたが横たわっているかどうか覗かせて、大胆で強靱な重要人物さん。女の子は皆

弱いもの。時々。そうなる。一方あなたはいつも決意がきたい。アア、どこからともなく風が吹いてくる! 世の終末の夜のように。弓と矢のように私の口の中にジャンプし、飛び込み、鼓動する。スカンジナビアの主神は、なんと私の頬を打つのです! 見て、見て! ここがみみず腫れになっている。手を伸ばして、島のように、橋のようになっている。アイランド・ブリッジはあなたと私が出会ったところ。あの日。思い出さない! なぜあのおときあそこで、なぜ私たち二人だけだったのか。私はほんのちっちゃな 10 歳のちびだった。粋な服を見るといつもドキドキした。確かに彼は私にとって父のようだった。でもふんぞり返った歩きぶりは、サックヴィル通りから溢れんばかり。そして今までの最もひどいこの気まぐれ屋は、夕食会のテーブルで、脂肪の塊をフォークに突き刺したまま、ある痩せた子供の後をいつも目で追いかけていた。しかし口笛吹きのお王様であった。学校で覚えたのね! この時期彼の大型アイロンを私のサテンにかけるとき、よく彼はそのサテンをもってくれた。また私たちがデュエットで歌うため、ミシンの上の二つのろうそくを灯してくれた。きっと私を驚かそうと、目をぎらつかせるためにジュースを自分の目に浴びせたのだろう。でも私にとってとても優しい人。ウィックローの丘でフィン・マクールのような人を誰が探し求めるでしょうか。でも続き物の中にも、藍色の釣鐘草が生えている間、愛しあう者たちがいるということを読んだ。他の者たちもいるだろうが、私の場合はそうではない。でも私たちが以前会ったことがあることを彼は全く知らなかった。毎晩毎晩。だから【出て】行きたかった。しかもあらゆるものを持って。あるときは私に楽しい思いをさせようと、黒や褐色の枝が生い茂ったところで、にこにこ笑いながらあなたは私の向かいに立った。私はおとなしくじっとしていた。またあるときは黒い大きな影のように、暗く叫びながら、刺し通すような目で私を見て、私にかぶりついた。私は身を凍らし、あなたのために祈った。全部で三回。その頃私は皆のお気に入りだった。王女にもなれるような娘だった。あなたはパントマイムに出てくるバイキングのリーダーだった。アイルランドの侵略。恐怖を抱かせつつ、あなたはアイルランドに向き合った! 私の唇は恐怖の喜びで鉛色になった。ほとんど今と同じように。どのようにかかって? あなたの心を開く鍵をどのようにしてあなたに差しあげましょうか、とあなたが言ってくれたときのように。そして死が私たちを引き離すまで、私たちは結婚しているだろう。とはいえ私たちは別れなければいけない。ああ、私の人! いや鍵を与えなければいけないのは私。ダブリン自体が鍵をくれたように。このダブリンが。でも別れを告げることなどありうるのだろうか。ああ、この強まりつつある日の光の中で、あなたをじっと見ていられるもっとよい眼鏡が欲しい。でもあなたは変わりつつある、愛するあなた、あなたは変わって私から離れつつある。そう感じられる。いや変わりつつあるのは私だろうか。私は混乱してい

る。[627]【あなたは】輝き、心を引き締めて。そうだ、息子である夫としてあなたは変わり、そしてまた丘から娘である妻へと向かっているのが私には感じられる。ヒマラヤのような丘から豊かな幻影となって。彼女【イシー】はこちらへやってきつつある。私の後を泳ぎながら。潜り、私の尻尾をつかんで。さっと活発な機敏な丈夫そうな疾走するスプリンターだ、そしてそこら辺で宙返りもする。その彼女自身がサルタレロのダンスとなる。あなたの見慣れた老いた姿がかわいそう。今はもっと若い者がそこにいる。別れないようにしてね。親愛なる者たちよ【HCEとイシー】、幸せになりなさい！私の言うことが間違いでありますように！というの、母の胎内から出たばかりの私のように、彼女はあなたにとって可愛くなるだろうからだ。私の青色の広い寝室、静かな大気、雲一つない。平穏で静かだ。ただただ私はずっとそこに留まりたかったのに。何か私たちのなかで狂った。始めにそう感じ、次に立ち行かなくなる。もし彼女が望むなら、彼女に思い通りにさせなさい。彼女の好きなように穏やかに、あるいは力を込めて。私がいなくなる時が来たので、ともかく彼女の思い通りにさせなさい。してもいいと言われたときには私は【あなたのために】最善を尽くした。私がやればすべてうまくいくといつも思いながら、100件世話をしたとするなら、トラブルはちょっと。私のことを理解する人がいるのかしら。ずっとこのときまで一人でも。生まれてこの方ずっと私は彼ら【HCEはじめALPの家族】の間で暮らしてきたが、私にとって疎ましい人間になりつつある。彼らの細かい思いやりのペテンぶりが嫌い。さもしい馴れ馴れしい性向が嫌い。彼らのちっぽけな魂からは我欲がほとばしる。その無骨な体からは怠惰が漏れ出る。すべていかにちっぽけなものか。私は内心いつもそう思っている。そしてずっとそう口にしていく。【以前の】あなた【HCE】はこのうえなく高貴な物腰で輝いていると思っていた。【今の】あなたは単なる野暮な田舎者。あなたのことを罪の意識や栄光とか、あらゆる点で偉大な人物と思っていた。あなたはただのケチな人間に過ぎない。故郷！私の一族は彼らの類いではなく、彼らなど足下にも及ばない。厚かましさと不品行とぼんやりしていることで、彼らネズミイルカたち【ALPの家族、特に子供たち】はこきおろされている。いや！彼らのたてるひどい騒音の中では、私のひどいダンスも非難されない。私アンナ・リヴィア・ブルーラベルは、彼らの間にいる自分の姿を目に浮かべることができる。私の片方の乳房をつかもうとしたとき、あの荒々しいアマゾン女【イシー】はどんなに見目うるわしかったことか！今傲慢なナイルの月である彼女が私の髪の毛をむしりとりろうとするのは、なんと薄気味悪いことだろう！というの、嵐のように騒々しい者たちは彼らだからだ。しょうがない者たち！困った者たち！私が立ち上がって解放されるまで、私たちの叫び声はぶつかりあう。そよ風もあなたの名前を耳にしたことはない、と彼らは言う！しかしここにいる彼らを私は嫌になる。

すべてにムカムカする。私は独りぼっちで気が狂いそう。すべて彼らのせい。私は消えて行く。アア苦い終わり！彼らが起きないうちにこっそりと私はいなくなる。【私の姿を】彼らが目にすることはないだろう。【私のことを】知りもしないだろう。私がいなくて寂しいとも思わないだろう。これは昔、昔の悲しい話、遠い昔の悲しい話となる。[628]そして疲れて私はあなたのもとへと戻る、心の冷たい私のお父さん、心の冷たい気の狂ったお父さん、心の冷たい気の狂った恐ろしいお父さんのもとへ。そしてついに彼【HCE】の体形が近くにぼんやり見えただけで、その何マイルもあるような、嘆き哀しんでいる大きい体形が見えただけで、船酔いのように気分が悪くなり、アア私だけのお父さん、私はあなたの腕に飛び込む。彼らが起き上がるのが見える！あの恐ろしい尖った先端【頭？】から私を救って！もう二つ現われた。少しの時間にもっと。だから。こんにちはさようなら。私の葉っぱが私から漂い出る。すべて。しかしまだ一枚残っている。私はそれを自分の上に乗せておこう。思い出すために。リフィーを！私たちの今日の朝はとても穏やかだ。そうだ。お父さん、おもちゃの市でそうなされたように、私を連れて行って下さい。大天使の群れから降りてきたように、お父さんが白い翼を大きく広げ、私のところへ降りてくるのを見たならば、黙っておずおずと足下にひれ伏し、ただただ崇めるばかりだろうと思う。そう、時間だ。あの場所がある。初めての場所。そこに向かって私は茂みを抜け、原っぱを通って行く。静かに！カモメが一羽。カモメたちだ。遠い呼び声。お父さんがやってくる。ここで止まって。それから私も。フィンよ、再び【会う日まで】！連れて行って。しかしそっと。私を覚えていて！何千年も。楽園！への鍵。孤独な最後の愛の対象となった長い道よ

パリ 1922-1939

(注)

『フィネガンズ・ウェイク』の原典は、James Joyce, *Finnegans Wake* (N.Y. Viking Press, 1947)を使用した。本文中の[ ]内の数字は、*Finnegans Wake*の原典のページを表す。【 】内の日本語は、該当箇所の内容を筆者なりに解説したものである。( )内の日本語は、原典の( )内を訳したものである。参考文献としては、以下の書を使用した。

1. Campbell, Joseph and Henry Morton Robinson. *A Skeleton Key to Finnegans Wake*. 1944; rpt. N.Y.: Viking Press
2. Rose, Danis and John O'Hanlon, *Understanding Finnegans Wake: A Guide to the Narrative of James Joyce's Masterpiece*. New York: Garland Publishing, 1982
3. McHugh, Roland. *Annotations to Finnegans Wake*. Revised edn. Baltimore and London: Johns Hopkins University Press, 1991.
4. Glasheen, Adaline. *A Third Census of Finnegans Wake*. Evanston: Northwestern University Press, 1963.
5. Mink, Louis O. *A Finnegans Wake Gazetteer*. Bloomington and London: Indiana University Press, 1978.

6. 柳瀬尚紀訳『フィネガンズ・ウェイク』I、II、III、IV、河出書房新社、1991年
7. 宮田恭子訳『抄訳、フィネガンズ・ウェイク』集英社、2004年

## 『フィネガンズ・ウェイク』第4部の概要(2) (p.604 l.27 ~ p.628 l.16)

大島 由紀夫

(東京海洋大学海洋工学部海事システム工学科)

**要旨：** ジェイムズ・ジョイス著『フィネガンズ・ウェイク』の第4部の604ページ27行目から628ページの16行目までを訳出した。逐語的に訳した所もあるが、内容をくみとりながらその主意を表した所もあり、「概要」といった題名にした。この訳出した箇所では、聖ケヴィンの言動、ミュータとジューヴァの対話、パークリーと聖パトリックの論争、ALPの手紙の内容、ALPの意識の流れが主に描かれてある。

**キーワード：** フィネガンズ・ウェイク、第4部、概要